

第17回東京菅江真澄会開催のご案内

今回は、秋田県立博物館学芸主事の松山修さんを講師にお招きした学習会と、秋田県出身のテノール歌手、斎藤忠生さん（二期会会員・東京菅江真澄会会員）のコンサートを企画致しました。

日時 平成24年2月25日（土）

15:00～ 講演 松山 修 氏
「菅江真澄の地誌に見る後三年合戦」
16:30～ テノールコンサート 斎藤 忠生 氏
17:30～19:30 懇親会（きりたんぼ鍋有）

会場 日本青年館3階国際ホール

会費 講演・コンサートのみの方 3,000円

懇親会まで参加の方 7,000円

主催 東京菅江真澄会



※先着100名で締め切らせて頂きますので、お早めにお申し込みをお願い致します。(申込方法は裏面に記載)



松山 修 (まつやま おさむ)

秋田県立博物館学芸主事

秋田県内の小学校（比内町・男鹿市・秋田市）に11年間勤務の後、平成9年4月、秋田県立博物館に赴任。開設されて2年目の菅江真澄資料センターを担当し、今年で15年目となる。

博物館では、菅江真澄資料センター運営の全般に携わり、資料センター関係の展示活動のほか、博物館教室の開催などの教育普及活動、研究誌「真澄研究」の編集や執筆などの広報出版活動、資料の保存活動を行っている。また、博物館の分掌として、教育普及班に所属している。

現在は、書誌学的側面から真澄著作の成り立ちに興味を持ち、記録の精読を続けている。



斎藤 忠生 (さいとう ちゅうせい)

秋田県生まれ。二期会会員。東京菅江真澄会会員。ベルカントの張りのある輝きを供えた美しい声の持ち主で、類似希な演技力と表現力でキャラクターテノールの第一人者。故立川澄人氏に強い影響を受ける。1997年から連続三年間、菅江本奥じゃうりりで国立劇場に出演し、「菅江真澄」という旅の名人に出会う。

オペラ「こうもり」「魔笛」「フィガロの結婚」等出演多数。特に小澤征爾指揮のホフマン物語で四役を見事にこなし話題となる。

菅江真澄（すがえますみ）

秋田県内の名所や史跡、風景、風俗を絵や文章で詳細に記録し、秋田藩領の地誌編纂に取り組むなど、秋田県に大きな足跡を残した。

彼は、江戸時代後期の紀行家であり博物学者であった。宝暦4年（1754）、三河（愛知県）で生まれた彼は、国文学や本草学を学んだ後、天明3年（1783）に30歳で旅立ってからは、二度とふるさとの地を踏むことはなかった。

その生涯の中で、信濃、越後、東北各地、蝦夷地を巡っているが、一番長い時間を過ごしたのが秋田だった。最初に東北を旅した時に訪れた秋田が忘れがたかったのか、48歳で再び秋田藩領に入ると、没するまでの28年間を過ごしている。

その間、現在の秋田県のほぼ全域を歩き、詳細なスケッチや紀行文などを残した。その著作は200冊以上にもなり、現在その半数近くが国の重要文化財に指定されている。



東京菅江真澄会

平成7年、秋田県にゆかりのある関係者や菅江真澄研究者が相集い、以後毎年2月に菅江真澄の足跡を学習し、きりたんぼ鍋を囲み懇親を深めている。年会費などはなく、一年に一度の気楽な学習会で、どなたでも参加できる会として継続している。

東京菅江真澄会

会長	佐々木 計三	03-3475-2556
副会長	皆川 学	048-622-7545
	高堂 理	03-3482-2878
会計	竹川 みさ子	047-368-1384
顧問	近藤 昌一郎	018-829-5355
	長屋 孝	047-924-5547
	仙北谷 明夫	078-858-0160
	村山 文夫	03-3453-7735
	渡部 建蔵	047-346-6233

お申し込みは、ハガキ、あるいはFAX、メールにてお願いいたします。

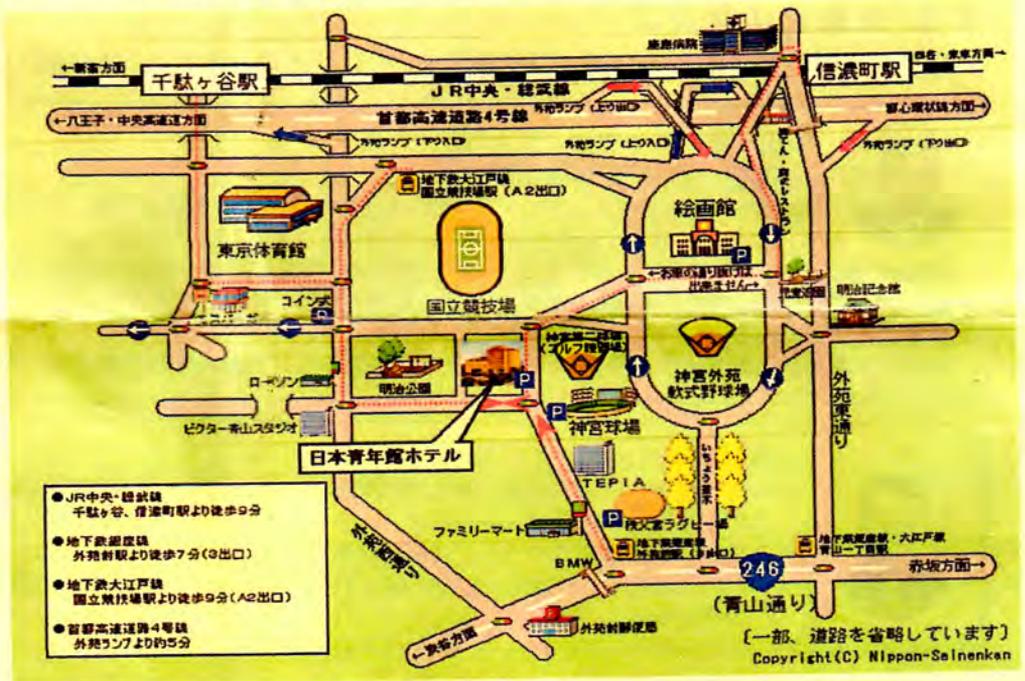
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町7-1 日本青年館内

東京菅江真澄会行き

FAXでのお申し込みは 03-3475-6605

メールでのお申し込みは k.sasaki@nippon-seinenkan.or.jp をお願いいたします。

なおいずれのお申込においてもお名前、ご住所、お電話番号と懇親会に参加するか否かを必ずお書きの上お申し込み下さい。



東京菅江真澄会参加申込書

・お名前 _____ ・電話番号 _____

・ご住所 〒 _____

・下記のどちらかを○で囲んで下さい

1. 講演・コンサート・懇親会の全部に参加
2. 講演・コンサートのみ参加